

松風園のスミレの花がきれいです。



浴風会

5 月号

令和元年 5 月 1 日発行
 【発行者】〒168-8510
 東京都杉並区高井戸西 1-12-1
 社会福祉法人 浴風会
 京極 高宣
 TEL (代表) 03-3334-2101
<http://www.yokufuukai.or.jp/>
 【編集者】露口 長
 【印刷所】株式会社サイド・ビー

令和の時代の新たな挑戦

読売新聞 調査研究本部

主任研究員

榎原

智子^{のり}



「浴風会」という高齢者の福祉や医療で有名な拠点があることは知っていたものの、広い敷地に足を踏み入れ、その多機能ぶりを実感したのは昨年のことでした。高齢の父の様子に違和感を覚え、医療機関に詳しい同僚記者に相談したところ、真つ先に勧められたのが浴風会の専門医を訪ねることでした。

杉並区在住の両親に通いやすいことも幸いでしたが、高齢期の心身の変化に詳しい医師やソーシャルワーカーなど専門職が連携して対応して下さり、本人にも付き添いの家族にも大きな安心感がありました。認知機能の診断では専門医から本人に丁寧な説明があり、自分に起きている変化を客観的に理解できた父は納得し、表情まで明るくなったことが印象的でした。

海外で保健や福祉の先進事例を取材すると「分野を超えた多職種連携」「ワンストップサー

ビス」「当事者中心のサービス」の追求が世界潮流になっていきます。認知症高齢者の増加、都市住民の孤立や自殺、依存症、児童虐待、家庭内暴力……。先進国の課題は複雑化しており、ケアの効果を最大化するための工夫が重ねられています。

日本では「縦割り」や「提供側中心」のサービスが目立つこともありますが、浴風会が「利用者中心」「専門職の連携」を理念とし、当事者を大切にしたケアを実践してこられた歩みは貴重で、感謝とともにその意義を身をもって感じました。

今、私たち日本人は歴史的な転換期を生きています。明治初期から続いた人口急増は終了し、2009年から人口急減期に入ったからです。わずか40年後に総人口は7割程に減り、その4割を高齢者が占めると推計されています。人類が経験したことの無い未曾有の変化に直

面している理由は、高齢者の増加ではなく、子どもや若者が減少し続けることにあります。

この状況を海外の識者は「人口変化の実験場」とみて注視しています。このままでは日本社会の持続性は失われ、年金制度だけでなく医療制度も介護制度も維持できなくなるからです。

誰も望まない危機的なシナリオを回避するため、私たちは今、何をすべきか。昭和と平成の成功体験、失敗体験をいったん脇に置き、令和の時代を構想することが求められています。その主題は、社会を挙げて「次世代育成」に取り組むことしかないと考えています。

高齢者福祉で果敢な挑戦を重ねてきた浴風会も、例外ではありません。高齢者の幸福を守るためにも、次世代育成にどう貢献していくのか。社会全体に新たな挑戦が問われているからです。

令和元年度 浴風会事業計画 (概要) について

事務局次長 浅井 敏男

Ⅰ 基本方針

1 経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取組の実施といった社会福祉法人制度改革への対応を着実に推進する。

また、地域包括ケアシステムの推進、自立支援・重度化防止に資する質の高い医療・介護・福祉サービスの実現などに鋭意取り組む。

一方で、法人の持続的な成長を可能とするため、質の高い人材の確保、安定的な経営基盤の構築といった取組にも努力を払っていく。

2 2025年に創立100周年を迎える浴風会の歴史や理念を踏まえ、浴風会の更なる成長に繋げるための中長期計画の策定に取り組む。

また、一体化した広報計画の下、実施事業の現状や方向性等について、適時適切に情報発信し、もって会内外関係者の理解と信頼の確保に努める。

3 これらの取組に当たっては、経営企画会議の下、法人事務局、企画開発本部、事業本部、人材確保対策推進本部、地域公益活動推進本部といった本部組織、また病院や特別養護老人ホーム等の各事業部門が部門を超えて密接に連携し、組織を挙げて対処する。

また、全職員が、浴風会職員であることに誇りを持ち、多職種協働で各々職務に邁進できる職場づくりを推進する。

4 更に、2040年問題を展望しつつ健康寿命の延伸、医療・福祉の生産性の向上を目指し、地域共生社会の実現に向け長期的な対応を図る。

Ⅱ 重点事項

1 地域との協働と社会貢献

- (1) 施設設備の開放、職員の派遣等を通じた地域交流の推進
- (2) 研修、職場体験活動等の積極的な受入れや各種講座の開催等の推進
- (3) カフェ事業等による高齢者の居場所づくりの実施
- (4) 認知症・介護等が必要になっても「お互いさま」の気持ちで支え合える地域共生社会づくりの推進

2 利用者中心のサービスの提供

- (1) 在宅療養後方支援病院としての機能の発揮
- (2) 在宅支援機能（老健、訪問診療、訪問看護等）の充実
- (3) 自立支援・重度化防止に資するサービスの推進
- (4) サービスマナーの向上並びにリスクマネジメントの徹底

3 専門職の連携を活かした職場づくり

- (1) 法人の特長を活かした採用活動の実施
- (2) 働き方改革への的確な対応（有給休暇取得促進、就労時間管理の徹底等）
- (3) 実習生の受入れ促進
- (4) 正職員登用試験の実施
- (5) 就業時間・諸手当・採用要件等の見直し（完全週休2日制導入等）
- (6) 研修制度及び福利厚生制度の充実
- (7) 労働安全衛生の推進（高ストレス予防等）
- (8) 障害者雇用・外国人雇用の推進

4 着実な事業実施のための経営基盤づくり

- (1) 堅実な財務運営基盤の形成
- (2) 計画利用率の確保・達成
- (3) 予算執行管理の徹底とコスト意識の向上
- (4) 既存事業の見直しと新規事業実施の検討
- (5) 法人機能の充実

Ⅲ 各事業計画概要

1 高齢者保健医療総合センター事業

● 浴風会病院事業

高齢者保健医療総合センターとしての役割を十分果たすため、地域包括ケアシステム支援の中核となる取組みを重点的に進める。

- (1) 在宅療養後方支援病院として、急性疾患により入院が必要になった地域の高齢者を積極的に受け入れ（または高度医療機関に紹介）、治療終了後は切れ目なく在宅療養につなげる。
- (2) 在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ）を推進し、会内事業との連携・統合化に取り組む。
- (3) 地域包括ケア病棟を中心に、地域の医療・介護サービス提供機関との連携を推進する。
- (4) ターミナル期における医療及びケアの充実を図り、より質の高い看取りを目指す。
- (5) 施設基準に的確に対応するとともに、在院日数の短縮、在宅復帰率の向上、ジェネリック医薬品の推進、差額病床の適正かつ効率的な運用を図るなど、診療単価の向上に取組む。

● 老健施設及び通所リハビリテーション事業

- (1) 安定的経営基盤の確保（目標利用率の達成）
- (2) 在宅強化型を安定的に維持するため「在宅復帰・在宅療養支援機能指標」の10項目について、目標値達成に向けて、各担当部

門が計画的に取組む

- (3) 利用率や在宅復帰率向上に関わる支援相談部門を中心に他部門の情報集約ならびに事業所内外の連携を強化する。
- (4) 第三者評価を受審することでサービス内容を見直し、また健全な施設運営を行うため組織体制を整備する。
- (5) 通所リハビリテーションにおいて、定期的なカンファレンスを実施することで、質の高いリハビリテーションを提供できるよう取り組む。

2 老人福祉事業 (養護老人ホーム、軽費老人ホーム)

複雑多様な生活課題を抱える高齢者に対して、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、居住支援、生活支援等を行うとともに、施設が有する機能を活用した地域貢献策を展開する。

- (1) 研修や職場体験活動等の積極的な受入れや、利用者の知識・特技を活かした利用者による講演会や料理教室等を地域へ向けて展開するなど、社会貢献や地域との協働を進める。
- (2) 誰もが安心して明るく生き甲斐のある日常生活を営むことができるよう、個別支援計画に基づく支援、生活環境の向上等全職員が一丸となって多職種協働で多様化したサービスの充実に向けた取組を進める。
- (3) 加齢に伴う身体機能の低下、認知症等精神疾患利用者の増加を踏まえ、要介護ニーズについては、介護保険サービス等の活用も併せ、可能な限り住み慣れた施設での生活を継続できるよう、取組を進める。
- (4) 各施設が行う行事・クラブ活動等の内、他施設の利用者も参加可能なものについて情報共有することにより利用者の選択を拡大し、相互の交流が可能となるよう、情報共有を進める。
- (5) 研修等への積極的な参加による専門性の向上に努めるほか、良好な人間関係を構築・維持する能力や説明・調整能力等を養うなど、各職種間の密接な連携が確保された働

き甲斐のある職場づくりを進める。

(6) 人材の確保、サービス標準化による効率的、効果的業務の遂行、行政や医療機関等の関係先との良好な協調関係を構築、施設設備の計画的修繕・更新など、施設の安定的、持続的な経営基盤の確保を進める。

3 介護保険事業（特別養護老人ホーム、在宅サービスセンター及びグループホーム）

- (1) 緊急ショートステイの積極的受入れ。
- (2) 東京都の、生活困窮者自立支援制度に基づき、就労の機会を提供する。(特養)
- (3) 障害者雇用を支援する杉並区事業団及び NPO の施設外就労訓練生、若者の就労を支援する NPO の訓練生を受入れ、就労を支援する。(特養)
- (4) 小中高校生の体験学習、大学生のインターシップを受入れ、就労訓練を希望する生徒を積極的に受入れる。(特養)
- (5) 高齢者の就労を支援する NPO の「元高齢者地域活動サポート講座」受講生の実地研修を受入れる。(特養)
- (6) 地域の小中学校等の福祉教育への協力、地域住民への施設開放、車椅子の無料貸出し等地域の社会資源としての役割を果たす。(特養)
- (7) 身体拘束の廃止、リスクマネジメントの強化に取組む。
- (8) 当会病院との協働の下に特養の看取り介護体制を更に推進させる。
- (9) 適切な医療ケアを提供するために、医師・看護師・相談員・ケアワーカー等多職種による医療連携ケアの向上を図る。
- (10) 助成金を活用した介護ロボット導入、CT の更なる推進に努める。(特養)
- (11) 3 特養合同で介護職員（中途採用含む）対象のキャリアアップ研修等を実施する。
- (12) 空調設備等の計画的な改修・更新を図る。(特養)
- (13) グループホームにおける当会病院と連携した健康管理の充実。

(14) 在宅サービスセンターの安定した経営基盤確立のため、入浴等利用者ニーズに沿ったサービスを提供する。

(15) 「みんなの生き生き健康教室」、地域高齢者の自主介護予防教室「ももの木トレーニング」を継続する。(南陽園在宅サービスセンター)

4 地域サービス事業

- (1) 高井戸地区地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域の見守りなどの生活支援体制の整備に取り組み、認知症になっても介護が必要になっても「お互いさま」の気持ちで支え合える地域共生社会づくりを進める。
- (2) ケア24高井戸は、在宅医療地域ケア会議等を通じて医療と介護の連携の推進を図るとともに、認知症サポーター養成講座の開催や見守りネットワークを強化し、元気高齢者が活躍できる場や支えあいを推進する仕組みをつくる。
- (3) 居宅介護支援事業所は、医療と介護の連携推進を視野に入れたケアマネ業務の充実を図り、利用者それぞれに合った適切なケアプランを作成する。
- (4) ヘルパーステーションは、会内外の利用者ニーズに対応できるよう、人的体制の確保に優先して取り組むとともに、総合事業や、介護保険外のサービスについても積極的に実施する。
- (5) シルバーピアの相談事業は、区内11か所の LSA が高齢者の見守りや相談を通じて、安全安心な在宅生活を支援する。
- (6) よくふう保育園は、受託事業者・上水保育園と連携し、職員の子育て支援の充実を図るとともに、地域の保育需要にも柔軟に対応する。

5 認知症介護研究・研修東京センター事業

- (1) 国家戦略である認知症施策推進総合戦略「認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて」(新オレンジプラン) 推進に係る調査・研究・研修等を前年度に引き続き行い、認知症国家戦略の推進に寄与する。
- (2) 研究事業の実施に当たっては、その時々々の国策に応じた課題については「厚生労働省老人保健健康増進等事業」、基礎的な課題やセンターの独自性に基づく課題については、「センター運営事業費」、「日本医療研究開発機構 (AMED) 研究費」、「厚生労働科学研究費」、「文部科学研究費」、「生活協同組合・民間財団研究助成金」等を活用し研究を行う。
- (3) 新オレンジプランを推進する研究である認知症ケアレジストリ研究を実施する。当面、全国認知症介護指導者ネットワークとの協働により介護保険施設における登録数を拡大するとともに、当会 3 特養とも密に連携し登録を推進する。
- (4) 認知症介護指導者養成研修及びフォローアップ研修、認知症地域支援推進員研修を継続的に実施し、推進員と指導者が各圏域で協働することにより、医療・介護等のネットワーク構築や認知症対応向上に努める。
- (5) 認知症をポジティブにとらえる啓発や、認知症になっても本人・家族が安寧に過ごせる地域づくりに貢献する。
- (6) 地域貢献の一環として、杉並区との協働により、区民等を対象としたセミナーや区の認知症関連事業等に寄与する。
- (7) センター事業の評価及び運営に資するために、外部委員からなる「運営協議会」を開催し、研究・研修等事業全般についての評価を受けそれを踏まえた上で適切な事業運営を行う。
- (8) 認知症ケアの IOT や AI の進歩にコミットして行く。

令和元年度資金収支予算

単位:千円

区 分	収 入 予 算 額	支 出 予 算 額	予 備 費
社 会 福 祉 事 業			
養護 浴風園	478,406	478,406	0
軽費 松風園	345,963	345,963	0
軽費 ケアハウス	168,929	168,929	0
老人福祉事業計 (a)	993,298	993,298	0
特養 南陽園	1,145,361	1,143,838	1,523
特養 第二南陽園	706,636	705,538	1,098
特養 第三南陽園	1,070,751	1,068,370	2,381
南陽園在宅サービスセンター	40,024	39,413	611
第二南陽園在宅サービスセンター	87,959	87,959	0
グループホームひまわり	106,818	106,795	23
ヘルパーステーション	63,876	63,218	658
介護保険事業計 (b)	3,221,425	3,215,131	6,294
浴風会病院	3,016,285	3,015,811	474
老健 くぬぎ	628,999	628,999	0
認知症介護研究研修センター	316,491	312,941	3,550
本部事務局	179,224	178,076	1,148
本部等事業小計 (c)	4,140,999	4,135,827	4,698
社会福祉事業合計 (d=a+b+c)	8,355,722	8,344,256	11,466
公 益 事 業			
地域包括支援センター	51,788	51,788	0
居宅介護支援事業所	28,712	28,712	0
よくふう保育園	45,230	45,217	13
ケアスクール	16,797	16,675	122
公益事業合計 (e)	142,527	142,392	135
収益事業 (f)	17,200	16,660	540
総 計 (d+e+f)	8,515,449	8,503,308	12,141

浴風会の動き (4月)



中庭のソメイヨシノ

【本部事務局】

1日 「採用等辞令交付式」 開催 (新採用44名)。

3日 「新入職員研修会」 開催。

4日 近藤前会長「偲ぶ会」、京極理事長、専務理事等出席。

10日 「花まつり」 開催。

29日 天理教杉並支部の皆様により、構内の環境美化の奉仕を賜りました。

(浅井)

浴風会ケアスクール

Caféオレンジリボンウッド

1日 介護福祉士実務者研修開講。受講生12名。

8日 都立永福学園入学式招待(職員)服部。

8、26日 caféオレンジリボンウッド開店。次回は5月13日(月) 11時30分〜15時本館1階第三会議室にて開店いたします。パン、焼き菓子、コー

ヒーの他素敵な小物の販売と、折り紙など一緒に楽しめる手作りコーナーもあります。みなさまのご来店をお待ちしております。



10日 よくふう語ろう会(認知症介護家族会) 20名参加。(鈴木)

【老人福祉事業】

浴風園 (養護老人ホーム)

3日 「お花見会」。昨年に比べ桜の花も咲き続けており、昼食はお花見弁当を食べながらお楽しみいただきました。午後はNPO法人プロップKの皆様のご協力によるダーツ大会を開催しました。おやつには甘酒をご用意し、皆様に春のひとときをゆったりとお過ごしいただきました。

16日 「高尾霊園参拝」。39名のご利用者様が参加されました。参拝後は道の駅にも立ち寄り、買い物や飲食など各々自由にお楽しみいただきました。晴天にも恵まれ、充実した1日となりました。(宮崎)

松風園 (軽費老人ホーム)

4日 「お花見会」。食堂にて手作りお花見弁当やふるまい甘酒を楽しみ、追分だんごのお土産も皆様からご好評をいただきました。折り紙のかわいい桜の花やご有志のカラオ



ケもお花見会を盛り上げました。

25日 「高尾霊園参拝」。職員を含め33名が参加しました。バスを貸し切つて、朝9時半に松風園を出発。新緑がきれいな高尾山の静寂の中、皆様それぞれに手を合わせておられました。昼食後は、道の駅にも立ち寄り、買い物も楽しまれ、無事に帰園しました。(宮中)

浴風会ケアハウス

3日 「お花見会」。お花見弁当と桜餅をご用意し食堂だけでなくお部屋・外でも召し上がれるようにしました。お仲間同士で乾杯していた方もいました。食堂では、カラオケ大会もあり盛り上がりまりました。

19日 「歩こう会」。北の丸公園と東京国立近代美術工芸館に9名参加。

22日 「カフェケアハウス」。ミニコンサートがあり華やかでした。(尾滝)

【介護保険事業】

南陽園 (特別養護老人ホーム)

新年度になり、新たに新人ケアワーカー1名と看護師1名、登用ケアワーカー2名が南陽園のスタッフとして加わり、研修後配属先での勤務が始まりました。

10日 「花祭り」。礼拝堂で灌仏会法要が行われ、花御堂が各フロアを回りました。ご利用者の皆様とお釈迦様にお参りし、甘茶をかけていただきました。天気の良い日は構内に散歩に出かけて

います。春の心地よい日差しを浴び、身も心もリフレッシュしています。(丸山)

南陽園在宅サービスセンター (認知症対応型通所介護)

4月1日付で、生活相談員として勤務することになりました、鶴間由美と申します。

初めてのデイスサービスで、戸惑うことばかりですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

さつそく4月の初めには、当日ご利用のみなさまと、法人内の「桜の名所」を訪ねるお散歩を行いました。

桜の木の下に到着すると、参加者全員で記念写真を撮影するのですが、皆さん満開の桜に負けないステキな笑顔を見せていました。

今年は、この笑顔をたくさん見せていただけるように、ご利用者、ご家族のみなさまの生活をサポートさせて頂きたいと思っています。(鶴間)

★各事業のお問い合わせは随時行っておりますので、お気軽にご連絡下さい。

◎電話 03-3334-2743 (鶴間・工藤)

第二南陽園 (特別養護老人ホーム)

1日 3名の登用採用職員が着任しました。

11日 花御堂の巡行が行われました。お釈迦様に甘茶を注ぎ



お祝いし、甘茶もいただきました。
17日 今年度より月1回栄養士が中心となる「クッキング★カフェ」を開催します。第1回目は15名のご利用者と一緒にフレンチトーストを作りました。面会に来られていたご家族も参加してくださり、大盛況でした。(山崎)

第二南陽園在宅サービスセンター (通所介護、介護予防通所介護)

2日 浴風会敷地内で「お花見会の散歩」を開催。春の風を浴びて心地良いひとときになりました。
10日 フルートアンサンブルの皆様が来所されました。懐かしいメロディもフルートの繊細な音で聴くとまた違った発見があります。(隈本)



★ご見学のお申し込みやデイサービスへのお問い合わせは随時受け付けています。
 ☎03-3334-2140

第三南陽園 (特別養護老人ホーム)

3月31日 「全体家族会」。多くのご家族が参加してくださいました。家族会では榊園長より今年度の職員体制や事業計画、第三者評価結果等を説明し、その後各フロア懇談会にご参加いただきました



た。ご家族からは質問やご意見も多かった。ご家族からは質問やご意見も多かった。ご家族からは質問やご意見も多かった。
20日 「ボランティア交流会」。1階レストランにて、多くのボランティアの方に感謝の気持ちをお伝えすると共に、日頃の活動に関するご意見をいただきました。ボランティアの方々と共に、ご利用者の生活に楽しみや喜びが持てる活動を今後も提供していきたいと思えます。(佐々木)

グループホームひまわり

1日 「開園記念日」。18年目になりました。お赤飯でお祝いをしました。
15日 「お花見週間」。園庭へお花見に出かけました。満開の桜を見て「ピンク色がすばらしいわね。きれいなね。」と会話が弾んでいました。また、お買い物で高井戸駅の方へ行き、神田川の見事な桜にも感動されていました。
17日 「歌の会」。ボランティアの方がピアノの伴奏をして、総勢25名で、20曲ほど合唱しました。唱歌や懐メロを歌い、活気あふれる素敵な会になりました。(谷口)

【地域サービス事業】

地域包括支援センターケア24高井戸
 平成29年11月号に町会の無い地域で「ステキなとしの重ね方」というテーマで、「宮前まちづくりの会」を立ち上げた方々を紹介しました。今度

は、その地域で5月から「きずなサロン」を立ち上げる方々がいいます。

ここ数年、地域づくりに関わらせて頂く中で、地域の繋がりが薄れていることに危機感を持ち活動している方や新たに活動を始める方々に出会いました。防災会から町内会作りに変化してきたのも、災害時の支援には日頃の繋がりが重要という事を、日本全国で起こった災害から学ばせてもらったからだと言われた町会長さんもおられました。

新しい「令和」の時代を誰もが住みやすい地域に、身近な地域から一緒に考えていきたいと思います。(尾関)

杉並区地域包括支援センター
 ケア24高井戸
 ☎電話03-3334-2495

【病院事業】

浴風会病院



4月1日、平成31年度新入職員の辞令交付式が行われました。今年度は、医師2名、看護師19名、理学療法士4名、作業療法士2名、臨床検査技師2名、事務員1名の計30名が理事長から辞令を渡され、新たに浴風会病院の一員として配属されました。

今年度も地域の方々のお役に立てるよう、病院職員一同が決意を新たにしました。(中澤)

予約電話 浴風会病院(代表)
 ☎03-3332-6511

老健くぬぎ (介護老人保健施設)

3月27日～4月2日 3階デイケアでは浴風会敷地内にてお花見に行きました。池の鯉や亀を見ながらお茶を飲んでいただきました。春の到来を感じていただけたようです。

12、19日 2階入所フロアにて書道クラブを開催しました。昨春秋より月2回行っており、ボランティアの先生の指導で力強い字を書かれています。

22日 ボランティアによるフルートコンサートを開催しました。毎月の恒例となっており入所者の皆さんは楽しみにされております。(森屋)

★入所・デイケア・ショートステイご利用のご相談はお気軽にご連絡ください。

☎03-5336-7701(代表)
 ☎03-5336-7734(入所)
 ☎03-5336-7704(デイケア)

【研究・研修他】

認知症介護研究・研修東京センター

8日 センター会議、AI認知症ケア研修会(30名参加)

18日 韓国視察研修

22日 3センター合同DCネット会議
 据置型トランシーバー交換工事

23日 韓国視察研修

22・23、27・28日 5階四角部屋天井修復工事

1日付で、研修主幹1名採用致しました。(村上)



つなげたい浴風会の今③

養護老人ホーム 浴風園

心身健康で過ごす美味しい食事と、
楽しい食生活づくりの提供

管理栄養士 越森 一恵

浴風園は、浴風会のなかで最も古い歴史を持つ施設です。おおむね65歳以上で家庭での生活が困難な方が対象となります。

浴風会内では唯一の食事直営施設となっています。

浴風園のご利用者は基本的には自立の方々なので、介助の必要な一部の方を除き、食事は食堂でのセルフサービス提供、各々ご自身の体調に合わせておかずのお皿をトレイに載せられます。

当然好き嫌いがあある方もいらっしゃると思います。その為、たんぱく源である主菜はほぼ選択メニューにしています。事前に集計を取っていないので、毎日、毎食が勝負です。最後に来られた方も好きなほうのメニューをお召し上がりになれるように、過不足がないように、天候や日頃の動向を確認して材料を発注しています。

しかし、これも人間のやること、読みが外れてしまい最後にはいらしたご利用者が選択できないことにもなります。そんなお叱りも次回へ向けての糧にします。



調理師はその料理がいかに選択してもらえるか味付けはもちろん、料理に見合った器を選んだり、盛付けバランスを検討したり、並べ方なども常に工夫をしています。

また、ご利用者の中には耳が聞こえにくい、目が見えづらい方もいらっしゃると思います。その方々のために選択メニューを手描きイラストボードに描いて分かりやすくしました。今では待ち時間にメニューを選びながら、手描きのイラストを楽しみにしていただいているようです。捻りの利いたジョークを交えることも多く、ただ長い列を待つだけの時間から楽しい待ち時間へと変化しました。このように毎食ご利用者のコミュニケーションを大切にしています。

ここで働く調理師は長く、ベテランスタッフばかりなので利用者のほんの小さな嗜好もほぼ無意識に対応しています。直営だと小回りが利くので朝礼で出た小さな情報もすぐに全員で共有し、献立に反映するのも迅速に行えます。

ご利用者が一日の中で最も楽しみにしている『食事』の時間。栄養面だけでなく、味、見た目、雰囲気等、ご利用者が健康で穏やかな生活を送れるよう『食』の面からサポートしています。

施設概要

養護老人ホーム浴風園

設立：1927年（昭和2年）
定員：205名
昭和2年に事業を開始し、昭和38年に老人福祉法に基づく養護老人ホームとなり、建物は平成8年に全室個室に全面改築されています。
健康で楽しく生き甲斐のある生活のため、全職員一丸となって多職種協働で支援しています。



編集後記

4月1日午前11時半過ぎに菅官房長官から新元号「令和」が発表されました。現存する日本最古の歌集「万葉集」からの出典で、「初春の令月にして気淑（よ）く風和らぎ」（梅花の歌の序文）からこのことです。しかし、後の報道によれば後漢の張衡の「帰田賦」に「仲春令月時和氣清」（仲春の令月、時は和みて気は清（す）み）とあり、日本文化の発展過程を考えれば、古代朝鮮、古典中国がベースにあることも当然想像されます。ともかく、安倍首相の「厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりの日本人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたい」という新元号への想いが叶う時代を望みたいものです。

当会誌も今号をもって発行日を「令和元年」と表示することとしました。（つ）

ご芳志

平成31年3月16日から4月15日

多くの方々よりご芳情をいただきました。

ありがとうございます。

〈金品・物品〉

宮沢 郁子様、狩野 治男様
NPO法人杉並区民オペラ様

【ご意見をお寄せください】

〒168-8510 ※住所なしで届きます

機関紙「浴風会」編集部係

sounmu2@yokufukai.or.jp

http://www.yokufukai.or.jp/